

## 高校生活（生徒心得）について

### <礼儀>

- (1) 行動はその人の人格の現れである。常に品位を保ち礼儀を忘れてはならない。
- (2) 目上の人に対してはもちろん相互間においても言葉遣いは上品明瞭で、しかも正しくならなくてはならない。またいつも挨拶、会釈を忘れないように心がけること。

### <風紀面>

- (1) 本校指定の制服を正しく着用すること。

男子

#### 冬服

- ・ブレザー（校章は男女共左襟につける）
- ・セーター
- ・白またはブルーの長袖シャツ
- ・ネクタイ
- ・スラックス

#### 合・夏服

- ・セーター
- ・白またはブルーの長袖シャツ
- ・ネクタイ
- ・半袖ポロシャツ
- ・スラックス

女子

#### 冬服

- ・ブレザー（校章は男女共左襟につける）
- ・セーター
- ・白またはブルーの長袖シャツ
- ・リボンまたはネクタイ
- ・スカートまたはスラックス

#### 合・夏服

- ・セーター
- ・白またはブルーの長袖シャツ
- ・リボンまたはネクタイ
- ・半袖ポロシャツ
- ・スカートまたはスラックス

※ポロシャツとブレザー・ポロシャツとセーターとブレザーの組み合わせは禁止とする。

11月～4月の式典は、白の長袖シャツ及びブレザーを着用する（ブレザー内にセーター着用可）。

- (2) 冬服・合服・夏服の着用期間は特に設けず、気候や気温体調に応じて各自で判断する。
- (3) 正装は白の長袖シャツを着用する。（式典等）
- (4) 長袖シャツの場合は、男子はネクタイ、女子はリボンまたはネクタイを着用する。  
その際、第1ボタンを留めること。
- (5) 制服の改変造は認めない。改変造があれば再購入すること。
- (6) 頭髪は男女とも清潔を心がけ、パーマント・染色・脱色・エクステンションなどの人為を加えないこと。また、それに類似することは禁止。

(7) 身の回り品は華美に流れないように慎む。

●ピアス（ピアスの穴も含む）、指輪、ネックレス、シュシュ、カチューシャ等の髪飾り、カラーコンタクトレンズ（黒目を大きくするものを含む）等は禁止。

●化粧禁止（眉毛を書く事も含む）。

●履物は、活動的な運動靴や短靴（ローファー等）とする。ロングブーツは禁止。

●靴下の色は紺・黒・白を原則とする（ルーズソックス・レッグウォーマー等は禁止）。

●防寒のためのストッキング及びタイツは着用してもよいが、黒またはベージュとする。

●ストッキング及びタイツの上に防寒用ソックスの着用を認めるが、ストッキング及びタイツの色と合し、単色であること（目立たないように）。

●肌着は制服（襟・袖・裾）から出ないもので、柄や色が透けないものを着用。

（柄物のTシャツ・派手な色の肌着は禁止）

(8) 不要物は持参しない。

（インターネットに接続できる機器や腕時計、音楽プレイヤー、ゲーム等）

### <欠席・遅刻・早退>

(1) 体調管理や生活リズムを整え、欠席・遅刻・早退のないように心がける。やむを得ず欠席・遅刻をする場合は、必ず保護者に連絡をいれてもらうこと。

(2) 遅刻

●次の時間までにHR教室に入室すること。

学年遅刻・・・8時20分（1・2年） 8時25分（3年）

●徒歩の生徒は、正門・西門より登校すること。

●西門・西北門は8時25分に施錠します。それ以降は正門を利用すること。

●遅刻者（授業遅刻も同様）は次の要領で手続きを行うこと。

①職員室前で「遅刻届・入室許可証」を記入。



②職員室にて学年の教員へ提出し、サインをもらう（いない場合は他の教員へ）



③教室にて「入室許可証」を提出（担任もしくは教科担任）

(3) 早退

●やむを得なく早退する場合は、必ず担任もしくは学年の教員に申し出て許可を得ること。

●「外出・早退許可証」を担任もしくは学年の教員へ提出すること。

●帰宅後は、すぐに学校へ帰宅の連絡をいれること。

### <携帯電話の取り扱いについて>

登下校時の緊急連絡（安全確保）のために持参することを認める。ただし、学校敷地内では電源を切り鞆の中へしまうこと。盗難等の心配がある場合は、朝のSHRで担任へ預ける。（事故や不審者に遭遇した場合は、速やかに110番通報を行う）

### <自転車通学について>

伊丹市は、兵庫県下でも自転車事故が非常に多い地域あり、本校でも事故が後を絶ちません。自転車安全五則を理解し、自転車登校をすること。

1 車道が原則、左側を通行

歩道は例外、歩行者を優先

2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認

3 夜間はライトを点灯

4 飲酒運転は禁止

5 ヘルメットを着用

※「子どもが飛び出してくるかもしれない」「自動車が左折してくるかもしれない」等のかもしれない運転を心がけ、迷った時は必ず一旦停止・安全確認を行うこと。